

農業後継者育成基金事業

令和3年度農高・農大就農対策事業(農高就農促進対策助成)

事業主体名 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

1 目的

農業経営者育成を推進するために視察研修及び講習会等を行う。併せて、小中学生を対象に体験学習等を実施し、生徒募集を行うとともに農業への興味や関心を持ってもらう。

1年生は営農講座や農業大学校、農業開発センター等の視察研修の実施、2年生は農家委託実習、3年生は就農志向者研修や営農の門出を励ます会を計画した。

耕種部門は、植物の栽培管理や経営の基礎を学習するとともに、生産から流通までの6次産業化やGAP認証取得に向けて取り組む。畜産部門では、家畜の飼育管理を学習し、畜産共進会や和牛甲子園への出品・参加を行い、肉質向上や優良生産者育成に努める。併せて、全学科を対象にスマート農業教育について学習を深める。

2 実施状況

今年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、様々な行事を中止または規模縮小で開催せざるを得ない状況であった。昨年度以上に厳しい状況であったが、今年度実施した事業について紹介する。

(1) 視察研修(1年生)の実施

本県の農業の実態や農政の現状について1年次の早い段階で理解を深めることで、段階的に就農意欲の向上を図るために実施している。自営学科1年(義務入寮生)を対象に、県立農業大学校及び県農業総合開発センターの視察を行った。

新型コロナウイルス感染症対策で2日に分けての研修となった。また、例年2回行っているが1回のみの実施となった。

高校卒業後、農業大学校への進学を考えている生徒もいることから、進路活動に向けて具体的に組み立てる良い機会となった。また、本県農業の実態について理解を深めることができ、農業への興味・関心を高めることができた。



視察研修(1年生)

(2) 農家委託実習代替の視察研修(2年生)の実施

例年、総合実習の一環として自営者養成学科の生徒が7泊8日の日程で農家委託実習を行っているが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。その代替として、各学科で視察研修を計画したが、再度新型コロナウイルス感染症の影響を受け畜産科のみ実施し、二つの事業所を訪問させていただいた。

視察先は、地元はもとより県内外に優良な牛を提供しており、実践的な飼育管理法について詳しく学ぶことができた。



視察研修(2年生)

(3) 営農の門出を励ます会(3年生)の実施

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として規模を縮小し、対象者のみで行った。

農業大学校、農学部進学者をはじめ、農業関連の進路決定者を対象に実施した。今まで校内製造の牛乳や緑茶ペットボトルで乾杯をしていたが、今年度は「豚味噌缶詰」で乾杯を行った。



営農の門出を励ます会

3 今後の課題、取組

今年度の農業関連への進路決定者は直接就農者を含め17人であった。非農家出身の生徒が増えている中、今後も日常の授業や実習、就農促進対策事業や後継者育成対策事業を通して農業に対する理解を深め、農業関連産業への進路決定に繋げていきたい。また、小中学生が入学したい、在校生が入学して良かったと思える魅力ある学校づくりに取り組んでいきたい。また、今年度新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった諸行事についても計画的に準備を進めていきたい。